

ゆずりは通信

第26号 平成27年3月31日(隔月発行)

発行：ゆずりはの会事務局

電話：0565-35-7182

Eメール：takekaki@hm8.aitai.ne.jp

ホームページ：

<http://www.hm9.aitai.ne.jp/~warabino/>

平成26年10月定例会のメモ

10月14日(火) 午後7時～ 福祉センター 34会議室 14人が参加

<テーマ1>

介護保険制度の改正(平成27年～)の内容について .. 栗山さんが説明

1. 背景

2025年には、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上になる。

現在の医療・介護サービスの提供体制では、十分対応できないと見込まれる。

2. 自己負担額の増加

介護サービスを受ける時の自己負担額が、10%から20%になる(一定以上の収入者)

3. 特別養護老人ホームの入居の条件が狭くなる

入所者条件が、原則として要介護3以上となる。

4. 訪問介護サービスが大きく変わる

今までは介護保険の予防給付として行われていたが、今後は総合事業に移って行く。

実施主体が市町村に移行される。

軽度なサービスはボランティアなどが行えるようになる。

5. 通所介護サービスも地域の人だけに制限

地域密着型となる(他の地域の人を受け入れることが出来なくなる)

機能「個別機能訓練型」「預り型」などと分類され、「預り型」などは報酬が下げられる。

ボランティアが行えるようになる。

6. 全体

介護は税金で無く、保険として始まった。保険料を払った人が、それ相当の介護サービスを受けられるはずだったのに、それが崩れてきているのは、何かがおかしい。

費用の発生を抑える狙いが顕著になっている。

市民(素人)の参加を期待している。

<テーマ2>

立花隆の思索ドキュメント「死んだらどうなるか？」

9月14日放送のテレビ番組(1:15)の紹介 竹内さんが説明

* 臨死体験は存在する。

* 脳について研究が進み、臨死体験の仕組みが明らかになってきている。

* 臨死体験を、「死後の世」と受け止めるか、「過去の記憶を思い起こす夢」と思ふかは、個人にゆだねられる。

平成26年11月定例会のメモ

11月11日(火) 午後7時～ 福祉センター 34会議室
講師2人を含み 16人が参加

<話し合いの内容>

豊田市地域福祉活動可鋭角策定の進捗状況

- ① 豊田市地域福祉計画(市)・地域福祉活動計画(社協)の策定が進められているが、その進捗状況について、社協の地域福祉課:中田課長さんが説明。
策定委員の山村史子さんが飛び入りで参加くださった。
- ② 今回の計画は、平成27年から31年までの5年間をカバーする。
- ③ 27地域全てで、住民懇談会を開催した。
地域により様々な違いがあるので、この事情を踏まえた計画づくりを進めたい。
住民に対する地域福祉の理解と教育
策定完了後の地域福祉活動への地域住民の参加促進、 が目的である
- ④ 高齢者だけでなく、児童や障がい者も含めた総合的なものとする。
- ⑤ 豊田市民市民大学の開校
地域福祉コーディネータの設置
災害ボランティアセンターの設置・運営、 などの提案が有り意欲が感じられた。
- ⑥ 11月は、パブリックコメントの期間です。
市民の意見を反映させる有効な手段であるので、ぜひ活用してください。

平成26年 12月定例会

12月9日(火) 午後7時～ 福祉センター 34会議室 12人が参加

内容 :

* 11月の「地域福祉活動計画」の進捗状況について中田課長にお話いただいたこと
に関して意見交換

* 松本神宮寺の紹介 : 竹内

高橋卓志さんは、地域の中で、一定の影響力を持つ住職の立場を活かして、隣接する浅間温泉で、客が半減し、旅館の廃業が相次ぐ状況を救いたいと、様々な活動・事業を手がけています。

高齢化が進む中、どの地域でも必要とされる支え合いの街:ケアタウン作りを、行政を頼りにしないで、自力でやっておられることに頭が下がりました。

* 「納得できる旅立ちのために」という小冊子の紹介: 栗山さん

国際長寿センター<日本>の発行

大腸がん、脳卒中などを発病して治療を受ける場合に、例えば手術とか、化学療法とか様々

な選択肢がある。また術後にどのような所に住むのかも迷う。いくつかの事例に基づいて、どのようになったかを記述しているので、自分がその立場になった場合のイメージを得ることが出来る。

また暮らしを支える仕組みについて、いくつかの専門用語を説明しており、辞書代わりに使うことができる。

平成 27 年 2 月定例会

2 月 10 日(火) 午後 7 時～ 福祉センター 34 会議室 11 人が参加

内容 :

* あいちホスピス研究会への入会

ゆずりはの会 として加入します。

今年(2015年)の公開講座のプログラムは別紙のとおりなので、参加希望者は連絡ください。どなたか一人は参加したいと思います。

* 後藤健二さん

シリアで殺害されたことに関して、朝日新聞の記事を紹介。

殺された、けしからん、などの非難の応酬だけでなく、今お互いどう考えたらよいか、示唆を与える意見が記載されている。

* 豊田地域医療センター

在宅医療に力を入れているが、その仕組み・内容を記したチラシを配布して説明。

* ガンリスク検査 = AICS

5mlの血液採取で、ガンにかかっているかどうか、その可能性を判断してくれる。

費用は2万円くらい

* 桐村晋次の著書 「吉田松陰 松下村塾の人の育て方？」

“人の育て方—自力で成長してゆく人材を育てた史上最強の教育機関・松下村塾のリーダー:吉田松陰は何をしたのか”

松下村塾の教育については「共に学ぶ、傾聴の大切さ」など、現代にも通じる項目が多い。

* 腎臓がんの手術

発見の経緯と、医者を選択など、

いくつかの本を読んだが、「インフォームドコンセント」の本が参考になった。

* 加齢に伴う機能低下

運動をすると、機能低下が防げる。体温を上げることは、がんの予防にもなると聞いた。

* 豊田市「民芸の森」利用活用ワークショップ

本多静雄氏の旧自邸敷地をどう活用するか、市民グループが話し合っている。

例えば、「茶」のように昔からの文化を大切に作る施設とするか、子供の遊び場所とするかなど、いろいろな意見がある。

* 介護保険の報酬改定

介護保険の報酬が下げられることになった。この内容を勉強中なので、次月の説明する予定である。

平成 27 年 3 月定例会のメモ

3 月 10 日(火) 午後 7 時～ 福祉センター 34 会議室 10 人が参加

* **あいちホスピス研究会21回定期総会** に出席して 竹内公子、徳島昭子出席

* 会員は200人だが、総会への出席者は約30名だった。

会の運営費は、年間300万円。会費と事業での売上、寄付金でまかなっている。

* 今回の講演は、愛知国際病院の関係者

ホスピスは20床、費用は20万円から35万円/月。

入院期間は、30～90日。

有料老人ホーム「カナン」を立ち上げる。費用は 20万円位/月

* 「プレディの遺言」の紹介

認知症患者への接し方についての注意点を患者の気持ちの形で文章にしたもの。なかなか読ませる内容。

* ゆずりはの会の関わり。

あいちホスピス研究会に、会として加入し、7000円の会費を納入した。

年に5回開催される公開講演会に参加できる。講演内容は別途配布

参加費は、会で負担します。参加希望者は連絡ください。

* 本多さんのプロジェクト

サービス付き高齢者住宅。表向きは建設が推奨されているが、実際には、細かい制限があり、実行できない。国としては、施設をたくさん作ること(お金がかかる)から、在宅への転換を進めており、各自治体もこれに従っている。

* 介護保険報酬の引き下げ

最近引き下げられた。利用者にとって負担が減る効果がある。一方事業者には、収入が減ることになり、経営が苦しくなっている。働く人の報酬は、手当が増額されたとのことだが、事業全体の収入が減ることから、働く人の給料が増額するのかわからない。福祉事業は、以前から、定期昇給という仕組みはなかった。ある仕事に対していくらというような歩合制だった。その慣習が今も尾を引いている。